

薬師堂（本地堂）（重要文化財）

薬師堂は、神道と仏教の両方の関連性を持っている。輪王寺の一部であり、東照宮の境内で最も大きな建物である。本尊の薬師如来は、初代徳川将軍徳川家康（1543～1616）神霊の本尊とされていることから、本地堂と呼ばれるようになった。

家康は「東照大権現」と呼ばれる神道の神として祀られています。権現とは、一对の神、一人の仏教徒の神と、その神道の神としての姿を指す。そのうち的一对の神を水雀（すいじゃく）といい、仏教の神を本地（ほんじ）と呼ぶことから、本地堂と呼ばれるようになった。

薬師堂は 1636 年に建てられ、1961 年の火災を経て復元された。2013 年にはさらに改修が行われた。

薬師如来の十二天将

薬師如来に仕え、薬師如来を守る 12 人の将軍は、もともとヒンドゥー教の神々であり、仏教の守護戦士として仏教に組み込まれた。彼らは薬師如来の 12 の誓い-すべての衆生を助けるために薬師如来によってなされた一連の契約を表している。それぞれの将軍は 12 の干支のうちの 1 つを冠につけている。各王冠の後ろには、生・死・再生のサイクルを表す「輪廻転生」の後光がある。

鳴き龍

薬師堂の天井に描かれている大きな龍は、画家の堅山南風（1887～1980）が制作した修復画である。原画は、狩野派の巨匠として名高い狩野安信（1614～1685）が描いたものだが、1961 年の火災で消失してしまった。建物の音響から龍の名前が付けられており、龍の頭の真下に立つと、拍手が数秒間聖域に響く。

薬師堂の内陣（重要文化財）

薬師堂の祭壇は奥の壁の長さに沿って伸びている。中央には薬師如来が安置されており、湾曲した切妻屋根の豪華な造りとなっている。両脇には日光菩薩と月光菩薩が立っている。日光菩薩は太陽を表す赤い円盤を冠した杖を、月光菩薩は月を表す白い円盤を冠した杖を持っている。十二天将のうち 6 人が主祭壇の左右に沿って立っている。